

# オープン カレッジ

私は今、シンガポールに滞在中である。2021年6月に入国し、複雑な手続きと長いホテル隔離を経て、研究生活を始めた。シンガポールは、東京23区サイズの小さな都市国家で、多民族・多宗教・多言語が共存する社会である。多様な価値観の中で秩序を維持するため、厳しいルールと罰則があることはよく知られている。

新型コロナウイルスの対応も、驚きの連続だった。例えば、マスク違反は罰金2万5千円、隔離中の外出違反には罰金85万円や禁固刑、重いケースでは逮捕にいた

## シンガポールのコロナ対応

いる。慣れないうちは、うっかり違反してしまわないかと緊張した。日々の行動規制も厳しく、デルタ株が出た7月以降、面会や飲食できる最大数は2人に制限された。8月には早々と、ワクチン完業者しか店舗などへ入れなくなつた。

こうした締め付けに息苦しさを感じたかというところでもない。無理なく実現するための技術、工夫、枠組みがあり、むしろ安全や安心を感じた。施策を支える三つのポイントを紹介しよう。

一つ目は、ICT活用である。2014年よりSmart Nation構想を掲げ、電子決済が普及し、行政サービスの94%がデジタル化されている。新型コロナ

# 安心・安全提供する

## 三つのポイント

る。安全監視役である3千人のSafe Distancing Ambassadorが、街を巡回して



名城大学理工学部  
情報工学科准教授  
川澄 未来子

コロナ対策としては、接触追跡用アプリとトークンTrace Togetherを国民が個々に携帯し、訪問記録システムSafe Entryを店舗や学校やオフィスに設置することにより、陽性者との接触判定から検査まで短期で完結する仕組みが作られた。ワクチン接種状況もアプリやトークンで証明できる。さらに、配車・配送サービスGrabの存在も大きい。々に響いた。

かわすみみき「感性工学、情報デザイン、色彩工学。東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了。」

理工学部 川澄 未来子 教授

この価値感を丁寧にすり合わせながら一つの目標に向かって活動して得た達成感は大き